

## 【令和3年度1学期終業式 式辞】 出雲高校グランドデザイン ～出雲流人財育成の共有～

1学期の終業を刻む日となりました。コロナ禍にあっても、大過なく伸びやかに学校生活を送られたことを何よりも喜びたいと思います。「安全・安心な学びの場づくり」に努めてきましたが、概ね達成できたのではないかと思います。ただし、見えていない、気づいていない「危険の火種」があるかもしれません。もしもあるなら、伝えてください。いつでも、どんな手段でもかまいません。約束します。私たち教職員は、一丸となって皆さんの学校生活の安全・安心の確保に努めます。

さて、終業日の今日、一つだけ伝えておきたいことがあります。それは、出雲高校の現状と課題の分析を元に設定した、令和4年度用「出雲高校グランドデザイン」の共有についてです。

令和4年度入学生からは、学習指導要領が大きく変わり、タブレット等の個人端末購入を必須とする教育が展開されます。また、学校を閉じず地域との協働による教育が進み、各学校の独自性や特色化・魅力化が一層明確に求められます。そこで、本校でも教職員全員で協議し、6月までのところで教育の指針とも言えるグランドデザインを策定し、PTAや関係者の理解を得て、中学校等に説明しています。そこで、本日は新たに策定したグランドデザインを紹介し、教職員、生徒それぞれで本校の教育活動の意味について考え、今の取組の充実に役立ててもらいたいと思います。

グランドデザインには、3つのスクール・ポリシー（S・P）が盛り込まれています。1つは、アドミッション・ポリシー（A・P）といい、高校の入学段階で求める生徒像を表しています。2つめは、カリキュラム・ポリシー（C・P）で、教育課程の編制方針、つまりどのような教育活動を行うかを表しています。3つめは、グラデュエーション・ポリシー（G・P）といい、高校での教育活動を通して育てたい人物像を表しています。これらの結びつき等をデザインし、図に表したのが、グランドデザインとなります。

では、その構成を中心に概要を説明します。背景は、爽やかな青空に浮かぶ出づる雲。出雲のイメージを大切にしました。本校が所在するこの出雲地域は、自然と農地、医療機関や大学等の研究機関、歴史と文化を感じさせる施設など、まるで簸川平野のように豊かにかつ協力的な教育資源に満ちており、その上、出雲市や商工会議所、PTAや卒業生会など、多くの大人たちが協働体制をもって斐伊川の流れのようにバックアップしてくれる環境が整っています。そこに、可能性を秘めた「滴」のごとき中学生を受け入れ、学習活動やSSH、キャリア教育、課外活動といった4種の「光」を当て、中程の虹色に輝く資質や能力を磨き育てていきます。その結果、校歌にも歌われる、よい兆しを表すという「雲むらさき」のような地域・社会のリーダー人財を育成していく、これが出雲高校の教育デザインです。

次に、S・Pを中心に一部詳細を説明します。迎え入れたい「滴」のような生徒像（A・P）は、①好奇心が旺盛で、基礎学力を有している生徒、②感性豊かで、誠実に他者と関わろうとする生徒、③進んで集団に貢献しようとする意欲のある生徒、この3点で整理しました。その「滴」に当てる光（C・P）は、①普通科・理数科それぞれで特色を持って取り組む、日常的な授業第一の教科学習、②探究学習の柱であるSSH事業、③自己実現を支援するキャリア教育、④自主活動を主とする部活動等の課外活動、としています。様々な場面を通じて多様な光を当てることで滴はその資質・能力が磨かれ、光り輝きます。久徴の伝統精神である「至誠」をもって各種の教育活動を実践することで、磨き、高めたい生徒の資質・能力は、変化の激しい社会にあってもたくましく生き抜くために必要とされる、主体性・協働性・社会性・探究性といった「四性」であり、いついかなる時も学び続ける、挑戦の姿勢です。つまり、「至誠によって四性を磨き、姿勢を育む」、これが出雲流の教育方針です。目標として掲げる育てたい人物像（G・P）は、「地域・社会のリーダーとして貢献できる人財 ～国創りを牽引するイノベーション人財～」であり、①明確な目標を持ち、その実現に向けて努力する人 ②常に探究心を持ち続け、視野の拡大と変革を志す人 ③多様性を受容し、協働して新たな価値を創造できる人 であると考えています。

ここまで令和4年度の出雲高校グランドデザインを紹介しましたが、これは決して来年度から新たに始まるものではなく、現在実践している教育活動をブラッシュアップし、より一層推進していくものと考えています。生徒の皆さんは、自身が「滴」としてどう磨かれつつあるのか、望ましい人財に近づきつつあるのか、また教職員はしっかりと「光」を当てることができているのか、今一度振り返り、検証し、今後活かしてほしいと思います。

夏の滴磨き、自分磨きにも期待しています。再会の日を心待ちにし、終業式の式辞とします。